

## キャリア支援センター開所式及びオープニングセレモニーについて

## 概要

九州大学は、九州大学キャリア支援センター（QCAP）を学内に設置し、学内のポスドク等を対象として各種マネジメント教育コース、求人求職マッチング等のサービスを提供することで、専門的能力に優れた人材が社会で幅広く活躍することを支援します。

センターの発足に当たり、下記のとおり開所式及びオープニングセレモニーを開催し、「ポストドクター 1 万 5 千人時代のキャリアパス」と題したパネルディスカッション等を行います。

## 1. 開所式

日時 平成 18 年 7 月 27 日（木）14:00～14:25

場所 箱崎理系地区 21 世紀交流プラザ

## 2. オープニングセレモニー

日時 平成 18 年 7 月 27 日（木）14:30～16:30

場所 工学部本館大講義室

## 背景

第 1 期科学技術基本計画において、わが国の研究開発能力を強化すべく「ポストドクター等 1 万人支援計画」が盛り込まれて以来、ポストドクトラル研究者層の充実・強化が図られてきました。しかしながら増大したポスドク等の高い専門能力を十分に活用する場の整備が追いつかず、今日のポスドク過剰・就職難の問題を生じ、大きな社会的損失となっています。

そこで、文部科学省は第 3 期科学技術基本計画において「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」を打ち出し、ポスドク等の高度な専門性を有する人材がアカデミック領域以外の場において活躍するための環境整備に着手しました。本事業には、全国 8 機関（北海道大学、東北大学、独立行政法人理化学研究所、早稲田大学、名古屋大学、大阪大学、山口大学、九州大学）が採択され、本年度から 3 年間の計画でそれぞれ活動を実施します。

九州大学においてもポスドク等を学内に約 800 名抱えており、早急な対策が必要と考えていた折、本事業に採択されました。これをきっかけに、ポスドク等高度な専門性を有する人材を活用するためのシステムを構築し、長期的に取り組んでいく予定です。

## 内容及び効果

九州大学は、日本レコードマネジメント株式会社、麻生教育サービス株式会社、シュタインバイスグループ、財団法人九州システム情報技術研究所と連携し、九州大学キャリア支援センター（QCAP）を学内に設置しました。QCAP では九州大学内に在籍等しているポスドク等を対象として、グループ学習（キャリアデザイン講座）、カウンセリング（キャリア設計）、各種マネジメント教育コース、インターンシップ、求人・求職マッチング等のサービスの提供を開始します。このような「統合的能力向上プログラム」を実施することにより、ポスドク等が本来有する高度な専門性に加え、統合的能力（各種マネジメント能力、コミュニケーション能力等）が身に付き、社会における活躍の場が拡大するものと期待しています。

センターの発足に当たり、7 月 27 日（木）の午後 2 時から箱崎理系地区 21 世紀交流プラザにおいて開所式を行った後、同日の午後 2 時 30 分から工学部本館大講義室においてオープニングセレモニーを開催します。開所式では金山克己氏（日本レコードマネジメント株式会社代表取締役副社長）から来賓挨拶を賜り、その後キャリア支援センターの事業説明及び看板掛けを行います。また、オープニングセレモニーでは梶山千里（九州大学総長）から開会挨拶を申し上げ、来賓挨拶に錦泰司氏（文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課）をお招きしています。そしてキャリア支援センター活動説明及びスタッフ紹介を行った後、「ポストドクター 1 万 5 千人時代のキャリアパス」と題したパネルディスカッションを行います。パネリストとして、古野金廣氏（麻生教育サービス株式会社代表取締役社長）、小堀幸彦氏（株式会社シュタインバイス・ジャパン代表取締役社長）、庵原昇氏（新日鉄ソ

リユース株式会社社会・科学ソリューション事業部長)、山田耕路(九州大学教育担当理事・副学長、キャリア支援センター長)他をお招きし、現在のポスドクを取り巻く状況の根本的な問題点や高度な専門的能力に優れた人材が社会で幅広く活躍するにはどのような環境整備が必要か等についてディスカッションしていただきます。

#### 今後の展開

センター開所式後は、まず、グループ学習を8月に行い、各種マネジメント教育コースを10月から開講する予定です。文部科学省からの委託期間(3年)内にポスドク等の情報集約、各種環境・システムの整備を行います。3年間の委託期間終了後も自主運営し、継続的にサービスの提供を行っていく予定です。

#### 【用語解説】

ポスドクター、ポスドク

ポスト・ドクトラル・フェローの略で、博士号取得後定職を持たず、大学、国立試験研究機関等において任期付で研究を行っている者を指します。

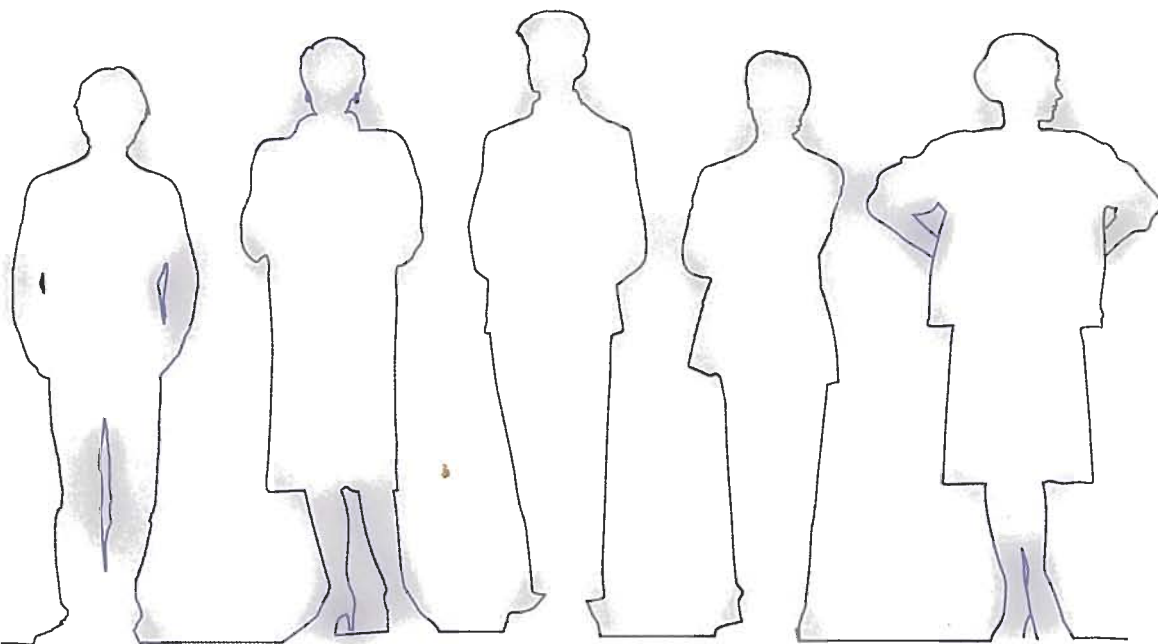
#### 【お問い合わせ先】

知的財産本部リエゾン部門 古川 勝彦

電話：092-642-4364

FAX：092-642-7128

Mail：furukawa@imaq.kyushu-u.ac.jp



# QCAP

Kyushu University Career Path

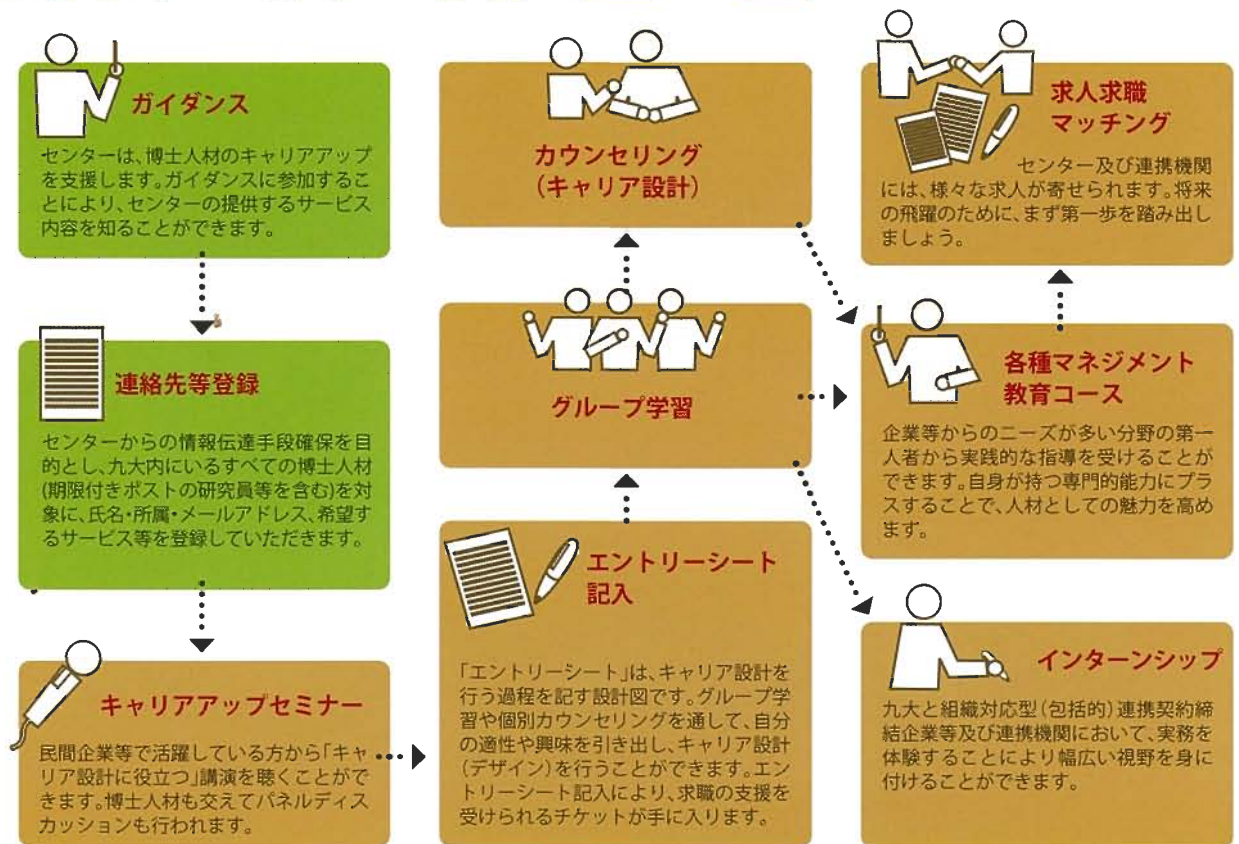
since 2006

## ■ センターの設置目的




経済の国際化が進展する中、天然資源の乏しい我が国が持続的な発展を図る上で、各社会領域において高度で専門性に優れた人材の活躍が期待されています。しかしながら、高度で専門性に優れた人材の活躍の場は限定的になりがちで、それら人材の能力を広く社会の中で活かすことができるようにする仕組みの構築が緊急の課題となっています。

本センターは、博士学位取得者及び博士学位取得を目指す方々（以下、「博士人材」という。）を対象に、統合的能力向上プログラム、キャリア設計に関するカウンセリング及び求人・求職マッチング等のサービス提供を行うことで、博士人材の研究者としての統合的能力向上並びに高度な専門性を活かす場の拡大を図ることを設置目的としています。

## ■ センターのサービス



## ■ 各種マネジメント教育コース

<p><b>プロジェクト管理</b> 膨大な情報、細分化・複雑化した組織と利害関係、競争激化、時間プレッシャーといった状況下で、見失いがちになる自己実現と組織目的の実現をどの様に行うのか? 「問題設定+問題解決」をプロジェクトとしてとらえた統一的(ホリスティック)なアプローチを学習します。個人の生活レベル、研究者レベルでの管理スキルを学習した後、産業界でのキャリアないし企業との共同プロジェクト参画を目指す研究者に対してイノベーション実践のための一連の方法とツールを解説した上で、ケーススタディと演習を行い、今日求められているリーダー能力の習得を目指します。</p>	<p><b>小堀 幸彦</b> (こほり さちひこ)</p>  <p>株式会社シュタイン ハイス・ジャパン 代表取締役社長</p>
<p><b>記録情報管理</b> 記録情報管理とは記録の作成から活用、保管、保存、処分までのライフサイクルを体系的、効率的に管理することです。最近では説明責任のコンセプトをベースとした「記録管理のパラダイムシフト」が進んでいますが、更にはリスクマネジメント、ナレッジマネジメントの要素を組み込んだ新しい観点からの取り組みが求められています。また記録管理とアーカイブズの有機的な連携を視野に入れる必要も出てきています。このような背景から各組織において、新しい専門職としてのレコードマネジャー(あるいはアーキビスト)のニーズが高まりつつあります。</p>	<p><b>小谷 允志</b> (こたに まさし)</p>  <p>記録管理学会会長 日本レコードマネジメント株式会社 レコードマネジメント 研究所所長</p>
<p><b>企業研究・開発</b> 企業における研究と開発の生き生きとした、ダイナミックな姿を講師の経験を通して講義します。それと同時に、大学における学術研究と、企業における製品に向かっての研究の特質、差異を時間の軸と、応用へのプロセスの軸で解説を行います。この中で、開発のプロセスがやり直しのループとの戦いであることを示します。また、企業での研究・開発が社会へ利益をもたらすことと、その面白さを示します。</p>	<p><b>柳 謙一</b> (やなぎ けんいち)</p>  <p>三菱重工日立島研究所長、 九州大学教授を経て現在 九大客員教授。 製鉄機械、エネルギー関係の 研究、開発に40年間従事</p>



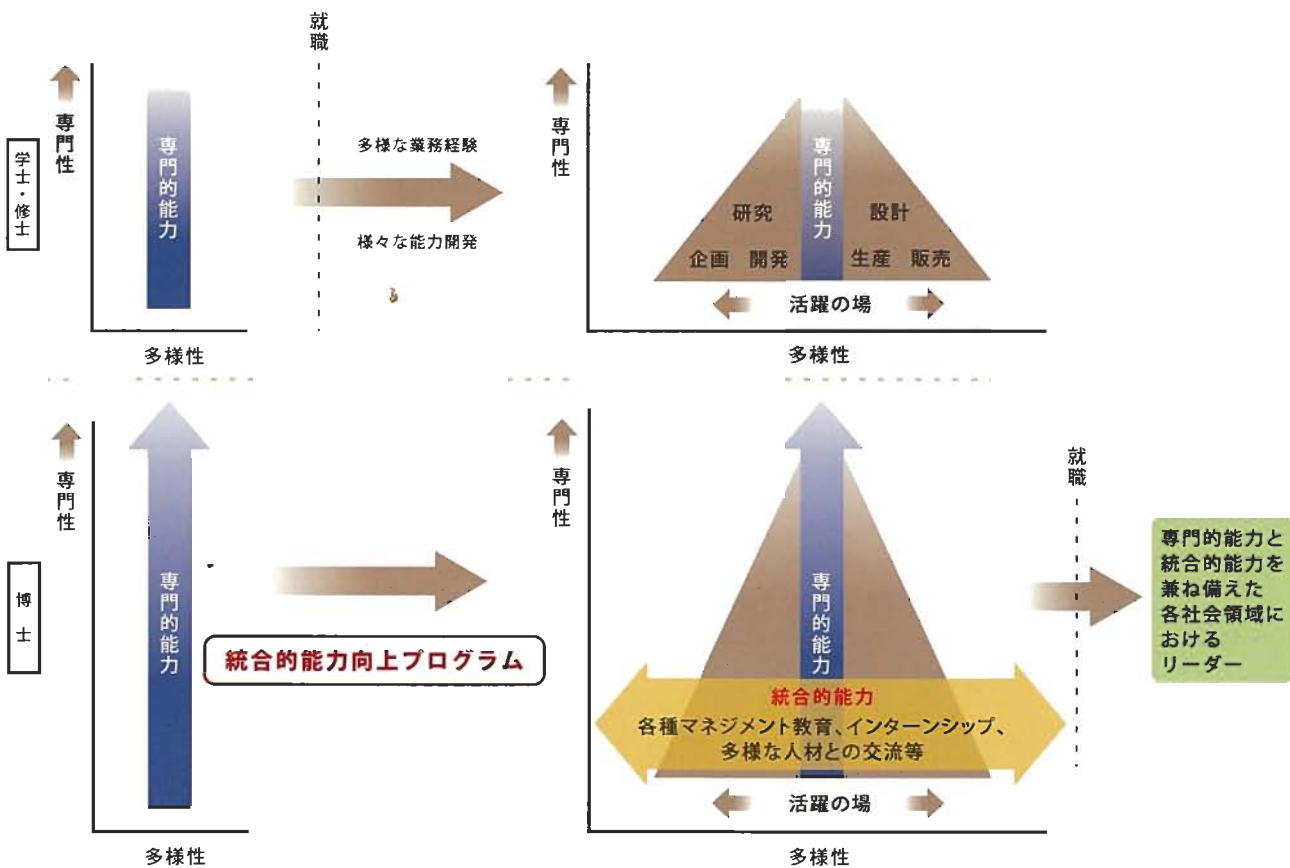
## ■ 統合的能力向上プログラム

### 現 状

学部卒業及び修士修了の人材は、多様な実務経験により社会適応力を高めつつ様々な能力開発を行い、結果として自身の適性にあった業務領域を中心に活躍の幅を拡げています。一方、博士人材の活躍の場は、高度な専門能力を有効活用したい社会の意向と博士人材の専門性に對する拘りが相まって限定的になりがちです。

### プログラム実施後の展望

博士人材に、多様な考え方をもった人材との交流、各種マネジメント教育及びインターンシップの機会を提供することで、専門的な能力に加えて統合的な能力を持つことを促します。このことにより、博士人材の研究者としての統合的能力向上並びに高度な専門的能力を活かす場の拡大が図れると考えています。



#### 知的財産権

今なぜ知的財産が重要なのか、国、企業、個人など様々な角度からその意義を考えてゆくとともに、知的財産の制度、システムを主としてどのように活用できるか、活用すればよいのかという視点から重点的に解説します。併せて特許出願明細書を中心とする出願書類の作成、審査対応ライセンス契約を含めた権利の活用など、基本的実務が主体的にこなせるよう、何が面白いのか、何が難しいのか、いかなる能力が求められるのか、知的財産専門職の今後などの見方も交え、具体的に解説します。

阪口 真一  
(さかくち しんいち)



阪口真一弁護士事務所  
弁護士  
大分大学客員教授

#### ベンチャー起業

ビジネスとは？起業とは？そして経営とは？1970年創業以来、常にビジネスの最前線で活躍し続けてきた経験を基に、「ものづくり」から「起業」、「真のMOT」まで、実践的な講義を通し、ベンチャーの起業のみならず、社会で生き抜く本当の力を伝授します。講義は座学、グループワークを中心に、実際にビジネスモデルを自分達の手で構築し、特許を出願し、新事業を創出することを目指します。

多喜 義彦  
(たき よしひこ)



システム・インテグレーション株式会社代表取締役社長  
特定非営利活動法人日本知的財産戦略協議会理事

各コースは、実業界において長年実務に携わってきた第一人者を講師として3時間×10回程度の講義及び実習により構成されます。それぞれの講義及び実習は講師の経験事例を基に組み立てられており、コースの受講により実務知識の吸収ができるだけでなく各講師自身のキャリア構築のストーリーについてもお聞きすることができます。

## ■ カウンセリング及び求人・求職マッチング

### セミナー、グループ学習

民間企業等で活躍している方から「キャリア設計に役立つ」セミナーを聴くことができます。さらに、グループカウンセリング、自己分析用アセスメントなどを利用してキャリア設計を行います。

## 集団研修から個別支援へ

### カウンセリング



自分自身のことを理解するのは意外に難しいことです。カウンセラーと一緒に考えることで自分自身を客観的に見つめなおし、最適なキャリアを見出します。またキャリア実現のための具体的方策についても考えることができます。

### 求人・求職マッチング



キャリア支援センター及び連携機関には様々な求人が寄せられます。将来の飛躍のために、まず第一歩を踏み出しましょう。博士人材の方々の専門性・希望と企業側等のニーズを踏まえたマッチングを行います。

## ■ 連携機関の紹介

### ・日本レコードマネジメント株式会社

情報の記録管理を専業とするわが国における草分け的な企業グループ。情報管理技術を武器に全国の100近い様々な業種の大手企業及び科学技術関連の国の機関の情報管理を支えている。

### ・麻生教育サービス株式会社

麻生グループの中で教育・人材部門を担当している。社会人向け教育(教育・人材・福祉・IT技術)を中心にビジネスパーソン向け研修、大学での若年者向け研修や、介護福祉サービス研修・就業支援・人材派遣紹介など、人的資源向上にフォーカスした事業を展開している。

### ・シュタインバイスグループ

ドイツを中心に全世界約50ヶ国のネットワークを通じて年間2万件の受託開発プロジェクトを推進するなど豊富なプロジェクトマネジメント実績を有する。

### ・財団法人九州システム情報技術研究所

アジア太平洋を中心とした国際的な産学官の協調の下で、システム情報技術に関する研究開発、国内外関係機関との交流および協力、コンサルティング、情報の収集および提供、人材育成などを行っている。

### ・組織対応型(包括的)連携契約締結企業

西部瓦斯(株)、大日本インキ化学工業(株)、三菱重工業(株)技術本部、(株)大島造船所、日本ゼオン(株)、(株)電通九州、三井造船(株)、日本産業デザイン振興会、日本電信電話(株)、西日本電信電話(株)、東陶機器(株)、日本電子データム(株)、(株)オートネットワーク技術研究所、日本政策投資銀行、九州電力(株)総合研究所、アサヒビール(株)、(株)東芝セミコンダクター社、(独)海洋研究開発機構海洋工学センター、(株)同仁化学研究所、(株)富士通研究所、宗像市、鉄鋼5社(JFEスチール(株)、新日本製鐵(株)、住友金属工業(株)、(株)神戸製鋼所、日新製鋼(株))、GFF(地域ゲーム開発産業団体)、国際協力銀行、(株)シュタインバイスジャパン、松下電工(株)、松下電器(株)グループ、日産化学工業(株)、福岡市、(株)日立製作所、日本レコードマネジメント(株)、早稲田大学、富士写真フイルム(株)



## 国立大学法人九州大学 キャリア支援センター

Career Path Creation Center of Kyushu University

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 工学部本館 214 号室

6-10-1 Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8581 Japan

Tel.092-642-7538 Fax.092-642-7539

URL:<http://www.qcap.kyushu-u.ac.jp>

E-mail:[info@qcap.kyushu-u.ac.jp](mailto:info@qcap.kyushu-u.ac.jp)